

参考資料2 「食のみやこととり～食育プラン～（H30～35）」目標値出典

重点目標：ライフステージに応じた健全な食習慣を実践する

指標	現状	目標
1日1回以上、主食・主菜・副菜の揃った食事をする県民の増加	88%	95%

栄養素摂取量を良好にし、生活習慣病の一次予防、身体機能の維持・向上を図るために、二次計画に引き続き主食・主菜・副菜を組み合わせた食事をする県民を増やすことを目指す。

年々、「毎食、主食・主菜・副菜の揃った食事をしている県民」の割合が減少傾向にある。そのため、まずは少なくとも1日1回以上、主食・主菜・副菜の揃った食習慣の定着を図っていくこととする。

出典 (現状) 平成28年県民健康栄養調査, 鳥取県健康政策課

(目標) 平成32年県民健康栄養調査, 鳥取県健康政策課

指標	現状	目標
朝食を食べる県民の増加 (児童・生徒)	86%	100%
(成人男性)	76%	90%

生活習慣の形成途上にある子どもは、全員が朝食を食べる習慣を身に付けることが理想であるため、食育推進基本計画と同様に全員が朝食を食べることを目指して100%とする。

成人の中でも特に働き盛り世代(20～50歳代)の男性の朝食欠食率が高いこと、二次計画の目標値で未改善である指標であることから、二次計画と同じ90%を目標とし、健全な食習慣の実践を図っていくこととする。

出典 児童・生徒 (現状) 平成27年度食事と生活についてのアンケート,

鳥取県学校栄養士協議会

(目標) 平成33年度食事と生活についてのアンケート,

鳥取県学校栄養士協議会

成人男性 (現状) 平成28年国民健康・栄養調査, 鳥取県健康政策課

(目標) 平成32年国民健康・栄養調査, 鳥取県健康政策課

重点目標：食に対する感謝の心を養う

指標	現状	目標
家庭で食事をつくる県民の増加 (成人男性)	38%	45%
(成人女性)	91%	95%

二次計画では、ほとんど食事をつくらない県民を減らし、全国並の水準を目指した。その結果、特に男性で現状値が改善したが、まだ二次計画の目標には至っていないため、引き続き目標として設定する。

出典 (現状) 平成28年県民健康栄養調査, 鳥取県健康政策課

(目標) 平成32年県民健康栄養調査, 鳥取県健康政策課

指標	現状	目標
食事のあいさつをする県民の増加	88%	100%

二次計画では、すべての県民が食事のあいさつをするよう目指したが、現状値に変化はなかった。そのため、引き続き食事のあいさつを通して食に対する感謝の心を養うことを目指し、100%を目標として設定する。

出典 (現状) 平成28年県民健康栄養調査, 鳥取県健康政策課

(目標) 平成32年県民健康栄養調査, 鳥取県健康政策課

重点目標：食の循環や環境を意識した活動を実践する

指標	現状	目標
食品ロス削減のために何らかの行動をしている県民の増加	72%	80%

食べものを大切にする意識を醸成し、残さず食べる、料理を作りすぎない、在庫食材の確認を行う等、食品ロス削減のために何らかの行動をしている県民を増やすことを目指す。目標値は国の値と同じく、80%とする。

出典 （現状）平成29年度第12回県民参画電子アンケート「県民の健康増進・保健医療の向上」に関するアンケート，鳥取県県民課
（目標）平成32年県民健康栄養調査，鳥取県健康政策課

重点目標：豊かな食文化を継承する

指標	現状	目標
地域の産物や旬の食材を知っている県民の増加	76%	80%

二次計画では、地域の産物や旬の食材を知っている県民を全国並の水準とすることを目指した結果、現状値に改善は見られたものの、目標値には達していない。そのため、「食のみやこである鳥取県の特性を活かした食育」を更に推進することによって、目標値の達成を目指していく。

出典 (現状) 平成28年県民健康栄養調査, 鳥取県健康政策課

(目標) 平成32年県民健康栄養調査, 鳥取県健康政策課

指標	現状	目標
地産地消を知っている子どもを増やす	60%	70%

小中学校では県産品を給食で提供するだけでなく、児童・生徒への食に関する指導の教材として県産品を活用している。二次計画では目標とした60%を達成したため、引き続き子どもへの指導を充実させ、更に地産地消について知っている子どもを増やすことを目標とする。

出典 (現状) 平成27年食事と生活についてのアンケート, 鳥取県学校栄養士協議会

(目標) 平成33年食事と生活についてのアンケート, 鳥取県学校栄養士協議会

指標	現状	目標
学校給食用食材の県産品利用率	71%	70%以上 で向上を図る

二次計画では、目標とした60%を大きく上回り、全ての市町村で60%以上の地産地消率を達成した。この水準を維持していくためには今後も関係者の不断の協力が必要なため、引き続き目標値として設定する。

出典 (現状) 平成28年度, 鳥取県教育委員会体育保健課調べ

* 県内産食材の使用率

(目標) 平成34年度, 鳥取県教育委員会体育保健課調べ

* 県内産加工品を含めた県産品の利用率

重点目標：食に関する正しい知識を持つ

指標	現状	目標
食品の表示の見方を知っている県民の増加	65%	75%

二次計画では、食品の表示の見方を知っている県民が少なかったことから、全国並の水準とすることを目標とし、現状値はやや改善したが、目標を達成することが出来なかった。そのため、食品表示の見方を理解し、食に対する正しい知識を持つ県民を増やすことを目標として設定する。

出典 （現状）平成28年県民健康栄養調査，鳥取県健康政策課

（目標）平成32年県民健康栄養調査，鳥取県健康政策課